

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開  
 ⑪ 公開特許公報 (A) 昭61-177972

⑫ Int.Cl.  
 A 24 D 3/06  
 A 24 F 13/06

識別記号 庁内整理番号  
 7235-4B  
 8114-4B

⑬ 公開 昭和61年(1986)8月9日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 煙草の脱ニコチン、タール法

⑮ 特願 昭60-16327  
 ⑯ 出願 昭60(1985)1月30日

⑰ 発明者 田中 友爾 豊中市宝山町19番8号  
 ⑱ 出願人 田中 友爾 豊中市宝山町19番8号

明細書

1) 発明の名称  
 煙草の脱ニコチン、タール法

2) 特許登録番号(範囲)

煙草のフィルターベース吸込口の面に、消臭剤、吸着剤、芳香剤、有機溶媒、塗料、酸化剤、還元剤、ニトロ化水素含有する、含水性、吸水性、同合成樹脂中間物質、ゲル化物質、薄く塗布し、ニ水性、ガラス、又は、八九一ガラス吸込口、煙草の他方を着火吸引する事で形成とする、脱ニコチン、タール剤によく、脱ニコチン、タール処理法。

3) 発明の詳細な説明

この発明は、紙巻煙草、着火管煙草に際して、ニコチン、タールの熱分解副生物による、発癌物質によって、肺癌の要因となり、これをより少くなく陳述する目的で以て、開発せんとするものであり、即ち、この紙巻煙草の着火管煙に於いて、この煙草のフィルターベースや吸込口の面に、又は、基部八九一内に脱ニコ

チン、タール剤、ゲル化物質、薄く塗布して、吸引する事により、有害物質のニコチン、タール、熱分解副生物を、吸着除去し、発癌性を抑制する事で特徴として、ゲル状脱ニコチン、タール剤によく、脱ニコチン、タール処理法。一概、公知の脱ニコチン、タール法を以ては、水パイプによる吸引法や、炭化物やゼオライトによる吸着除去法や、金属細管を通じて冷却凝集による除臭法が公知と看つてある。しかるに、この水パイプによる除臭法は、煙草の着火管煙に際し、ズルズルヒカル音と発し、不快感があり、又吸引する時、水を度々吸引する事がちり、又活性炭やゼオライト、吸着剤を使用する時は、脱ニコチンは極度に作用して風味を損な、少くないし、完全な有害物質、除去が困難となる、不便があり、又金属細管を通じて八九一ガラスの吸引法では、通常に於ける完全な脱除を以て、物理的処理法では、完全な脱ニコチンは困難である。したがつて本発明は、この水パイプの水を、含水

性、含水炭素物や含水性合成樹脂、同蛋白質が固定化され、吸引時ラズルズル音が除えられ、水、噴霧へ、吸引性が抑制し、他方、消臭有吸着剤、有害物質より少くなくして、酸化剤、還元剤、塗類、熱分解による有害物質を無害化し、芳香剤の吸着を附随して、発癌性を少くなく、且つ、脱煙量を少くなくして、煙化を改善せられた。脱ニコチン、アルコール処理法にかかる内容である。

2、範例の実施要領を図面によつて、説明すれば、次の如くである。

図に於いて、加熱体32、加熱し压シントルバー水と含水炭素や水溶性合成樹脂や、同蛋白質粉を投入して、加熱溶解して水溶液、脱臭剤、吸着剤、界面活性剤、芳香剤、塗類、酸化剤、還元剤、有機溶媒を投入して複合分散して、加熱温度10℃に達した後、加熱を停止して溶液を、注入器シントルバーに入れて、注入管5から容器6に入れて、冷却して凝固して、ゲル化物を作成する。

除去剤、配合剤を示すと次の如くである。

12.11	含水炭素又は合成樹脂、蛋白質	5g
	水	100g
	7% ニール、又は、7% セリソ	1g
	界面活性剤	0~0.1g
	酸化剤又は還元剤	0.1g
	塗類	1g
	染料、ハイドロカーボン剤	0~0.01g
	芳香剤	0.1g
	有機溶媒	1g

上記7%ニール又は、7%セリソには軽油を防虫剤ニールに復すと、ハイドロカーボン剤は酸素分解物やアルデヒド酸ソーダー塗類が成立し、芳香剤の安定化と吸着は作用する。有機溶媒は脱ニコチン吸着として効果があり、酸化剤や還元剤は熱分解物の無害化に役立つものである。

次の図に、このゲル化物による脱ニコチン、又は一般紙巻

：机至煙草A97フィルターA'の吸込口の面183は、ゲル化物99上面に塗布し薄い被膜を形成せしめた。

次に、又はこの煙草フィルターは差込石バインダ9'の木炭口にはされ、このゲル化物99塗布した繊維物を延伸して、煙草フィルターE差込穴、着火嘴煙草33時は、このゲル化物99作用は多く2、脱臭吸着と無害化を行ない、リーン燃焼が行はれ、脱臭性がより改善され、周辺部の煙煙がよし、タール臭の不快感を除去し、自動車の燃費燃少車室の悪臭を除去し、衛生化が効果を發揮する。

2、ゲル化物ニコチンニール剤は、簡便化する為に、ハイドロカーボン剤のゲル化物を塗布して繊維を延伸し、オヤツフ10ミリを接着して木炭面を防ぎ、張紙11を吸込口に張り、合せて底面し、ゲル化物、乾燥至時、左ハンドル9'6.29脱ニコチン処理法に含まることである。

3、脱ニコチンニール、熱分解による有害物、

煙草A97、水ハイドロカーボン剤入りのセリソは金属細管を組込んだハイドロカーボン剤は発明の如くである。

この結果、脱ニコチン紙巻煙草のフィルターはゲル化物の被膜を塗布したものは、燃焼煙味の残留ニコチンニール成分は9%に減少し、物理的処理による金属細管によく逆流式では、残留ニコチンニールは4.8%である。

2、ゲル化物の被膜量は0.001kg/m<sup>2</sup>充分に機能玉細管を1kg一袋は0.001kg/m<sup>2</sup>煙草は塗着して燃焼するよし。

周辺の煙煙による煙霧量を少くするには煙草フィルターはハイドロカーボン剤のニール剤の効果的、多量に塗布して、口に直接接触することが無から、より衛生的となる。

又、このゲル化物をフィルターと紙巻煙草、塗布面に、7%ニールを塗布したものは、フィルターへの着火を抑制し、フィルターの燃焼を抑制する、即ち火災の原因を改善する。

又、このゲル化物をフィルターは含浸せしめ

～喫煙する時は、タールの濾嘴力を改善し、金属細胞、2倍以上タールを吸収する。

以上の様に、著明な特徴は、水溶性、含水炭化物や水溶性合成樹脂や蛋白質、含水ケル化物の脱臭剤、吸着剤、芳香剤、酸化剤、還元剤、塗料、有機溶媒と添加混合せしめ石灰の煙草の吸込面に多くの塗布せしタバコに煙煙ガスを通過せしめ、第4間に、ニタール化物によつて、煙灰は、無害化と周囲の人々に煙室に下す不快感をより少く下す結果を発揮せしめ、タバコの吸い不快感の発生や吸引を防止、活性炭、様在、加工上の手間をより簡便化し、ユーストの低下を計り、より有害物と湿润物質によつて除去し、更にタール、濾嘴をより高めると結果があり、スイコロコロタール削にタバコ吸着向上と、芳香剤の安息香を計り、過分前に太子刷毛物の発癌性と、還元剤、酸化剤、塗料等の除去を改善せしめます。一方から減少室バーバーの喫煙タバコは、タールに役立ち、消火性となり、その結果、有用な

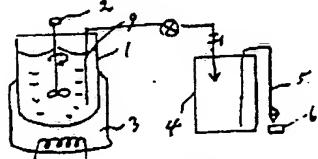
発明である。

④図面の簡単な説明

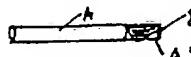
第1図は脱ニコタール、ケル化物の加工工程図、第2図は紙巻煙草の正面図、第3図は、ニタール化物を塗布要領を示す側面図、第4図は紙巻煙草のファイルタバコの正面図、第5図は、バインダの断面を示す側面図、第6図は脱ニコタールの断面。

特許出願人  
田中友輔(筆者)

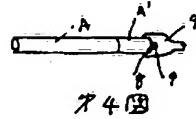
図面の説明(内容に変更なし)



第1図



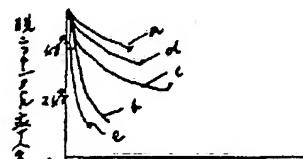
第2図



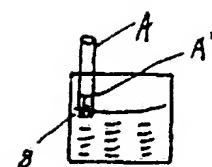
第4図



第5図



第6図



第3図